

## ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

確認年月日	令和5年6月16日(金)	確認目的	試運転の実施状況	
確認箇所	免震重要棟			
確認設備	<input type="checkbox"/> 測定・確認用設備	<input type="checkbox"/> 移送設備	<input checked="" type="checkbox"/> 希釈設備	<input type="checkbox"/> その他
確認結果	<p>ALPS 処理水の放出にあたり、ALPS 処理水の放出流量の監視やポンプ、弁の制御等、ALPS 処理水希釈放出設備の監視、制御は、免震重要棟に設置されている監視・制御装置により行われる。</p> <p>監視・制御装置を用いて海水移送ポンプ流量調整弁の開度を調整するための確認作業が行われていることから、実施状況について確認を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当日(6/16)は、満潮(1時頃)～干潮(8時頃)～満潮(16時頃)の潮位変化に合わせて海水移送ポンプ流量のデータを取得していた。</li> <li>・ 海水移送ポンプの出力を一定とした場合、潮位の変動に伴い海水流量が変動することから、必要最低流量を満足するための流量調整弁開度の確認作業が行われていた。</li> <li>・ 具体的には机上計算により流量調整弁開度の上限及び下限を算出、上限及び下限において潮位変動時の海水移送ポンプ流量のデータを取得、潮位と流量の相関直線図を作成し、海水移送ポンプ流量が最低必要流量及びポンプ運転限界流量の範囲内に収まることを確認していた。</li> </ul> <p>【東京電力からの主な聴取内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 潮位が上がると実揚程が短くなるので単位時間あたりに汲み上げられる海水の量が増える(ポンプ流量増)。潮位が下がると実揚程が長くなるので単位時間あたりに汲み上げられる海水の量が減る(ポンプ流量減)。</li> <li>・ 海水ポンプ流量の下限は、実施計画に記載されている希釈流量のとおり、7,086m<sup>3</sup>/h である。</li> </ul>			